

「日本におけるケミカルバイオロジー研究新展開」に関する研究開発専門委員会  
第5回委員会 議事抄録

日 時 平成25年6月6日 15時30分～19時00分  
場 所 東京国際フォーラム ガラス棟405室/403室

出席者 長田裕之（委員長）、穴澤秀治（副委員長）、  
井本正哉、上杉志成、上村大輔、遠藤正志、大島悦男、岡部隆義、  
掛谷秀昭、河岸洋和、菊地和也、木村宏之、斎藤臣雄、菅裕明、  
菅原二三男、袖岡幹子、永野栄喜、馬場良泰、津幡健治、日野資弘、  
矢守隆夫（五十音順、敬称略）

欠席者 浅見忠男、味戸慶一、上仲俊光、白井真、新家一男、田中隆治、辻尚志、  
春山英幸、吉村巧（五十音順、敬称略）

- ・特別講演：浅井章良 静岡県立大学 大学院薬学研究院 創薬探索センター  
「静岡におけるアカデミア創薬研究の実践」  
アカデミアで創薬を目標にしてどのような研究を行っているのか、行うべきかを議論するためのプレゼンをお願いした。抗がん剤の一例として、キネシン阻害剤の開発を紹介した。
- ・馬場委員（塩野義製薬(株)）  
「塩野義製薬における化合物ライブラリーの現状と取組み」  
化合物ライブラリーの構造多様性をどう発展させるか？特定のスクリーニングに対応した化合物ライブラリーの選定をどうすべきか紹介。
- ・井本正哉委員（慶応大学 理工学部）  
「宝探しと謎解きのケミカルバイオロジー」  
大学で創薬を志向した研究を行う楽しさと難しさを紹介した。特許より、学生の論文発表が優先される点が企業の研究とは大きく異なる。
- ・日野委員（アステラス製薬(株) 分子医学研究所）  
「醜酵産物の医薬品資源としての価値とプロセス研究による価値創造」  
これまでに開発された天然物由来の医薬品は、開発に平均17年かかっていることが紹介された。開発期間が長いことから、天然物離れが起きているが、天然物はピカ新薬の期待も大きい。